

# あいさつ運動の好事例

岡山県立岡山支援学校

(児童生徒数133人 教職員数168人)

## 学部を超えたコミュニケーション

～自主的な活動を通して、校内に笑顔を広げよう～

### アピールポイント

週2日、児童生徒用玄関周辺を中心に中学部・高等部の委員会・生徒会の生徒が自主的にあいさつ運動を行っている。

生徒会・委員会の生徒がたすきを作ったり旗を持ったりしてアピールし、あいさつの啓発に努めている。学部を越え、連携して取り組んでいる。

### 実際の様子



### 取組の概要s

#### ■児童生徒の実態

肢体不自由の特別支援学校で、小学部・中学部・高等部があり、幅広い年齢層の児童生徒が在籍している。

#### ■活動内容

中学部では、生活・美化委員会の生徒を中心に週2回、玄関前であいさつ運動を行っている。高等部では4年前から生徒会執行部の呼びかけであいさつ運動が始まった。現在、各クラス代表を含む7～8名の生徒を中心とし、週2日あいさつ運動を行っている。

生徒たちは、たすきやのぼり旗などのあいさつグッズを持ち、一日のスタートが明るい雰囲気に含まれるように、笑顔と明るい声を心がけてあいさつをしている。また、「学部を超えたコミュニケーション」をスローガンに、あいさつ+ひと言の言葉かけをしたり、一人一人から笑顔が返ってくるような気持ちを込めたあいさつを意識したりして取り組んでいる。

#### ■取り組みの参加メンバー

生徒、教職員

#### ■成果

はじめはあいさつすることを恥ずかしがっていた児童生徒も、生徒会・委員会の生徒に「おはようございます。」と声をかけられると、自然に笑顔がこぼれ、気持ちのよいあいさつを交わし合う光景が見られるようになった。また、あいさつ運動を行っている生徒同士も、同じ目標を掲げて取り組む中で、連帯感が生まれてきている。

あいさつは良好な人間関係の基礎。こうした取組を通して、人との関わりを深め、生きる力や自己肯定感をはぐくむことを目指している。